

水稻育苗箱専用長期持続型殺虫殺菌剤

Dr.オリセダントツ[®] 箱粒剤

クロチアニジン..... 1.5%
 プロベナゾール..... 24.0%
 鉱物質微粉等..... 74.5%

毒性 普通物 有効年限 4年 包装 1kg × 12袋

農林水産省登録 第21494号

●特長

1. 育苗箱施用で、水稻初期・中期の主要病害虫であるいもち病、白葉枯病、もみ枯細菌病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ツマグロヨコバイ、ウンカ類等を同時防除できます。
2. 育苗箱当たり50g施用で、長期間にわたって高い効果を示すので、省力的、経済的です。

●適用病害虫および使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 ツマグロヨコバイ ウンカ類 イネドロオイムシ イネミズゾウムシ ニカメイチュウ フタオビコヤガ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当たり50g	移植3日前～ 移植当日	1回	育苗箱の苗の上から 均一に散布する
			クロチアニジンを含む農薬の 総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の 総使用回数	
			4回以内 (移植時までの処理は1回以内、 本田での散布、空中散布、 無人ヘリ散布は合計3回以内)	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)	

(平成28年7月6日現在の登録内容)

●効果・薬害等の注意

- 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落とし、そのまま田植機にかけて移植する。
- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには薬害を生ずるおそれがあるので、必ず健苗に使用する。
- 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意する。
- 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態(湛水深3～5cm)を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意する。
- 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合には使用をさける。
- 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさける。
- 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持する。
- 誤って過剰に使用したり、本剤使用後4日以上移植せずに育苗箱中におくと葉枯れのなどの薬害を生じることもあるので、所定の使用量、使用時期、使用方法を厳守する。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。